

平成 29 年度

木材の利用の促進に関する
県の施策の実施状況

平成 30 年 9 月

秋 田 県

「木材の利用の促進に関する県の施策の実施状況」は、秋田県木材利用促進条例第十五条の規定に基づき作成するものである。

(参考)

秋田県木材利用促進条例（平成 28 年 4 月 1 日 秋田県条例第 6 号）

(施策の実施状況の公表)

第十五条 知事は、毎年、木材の利用の促進に関する県の施策の実施状況を公表するものとする。

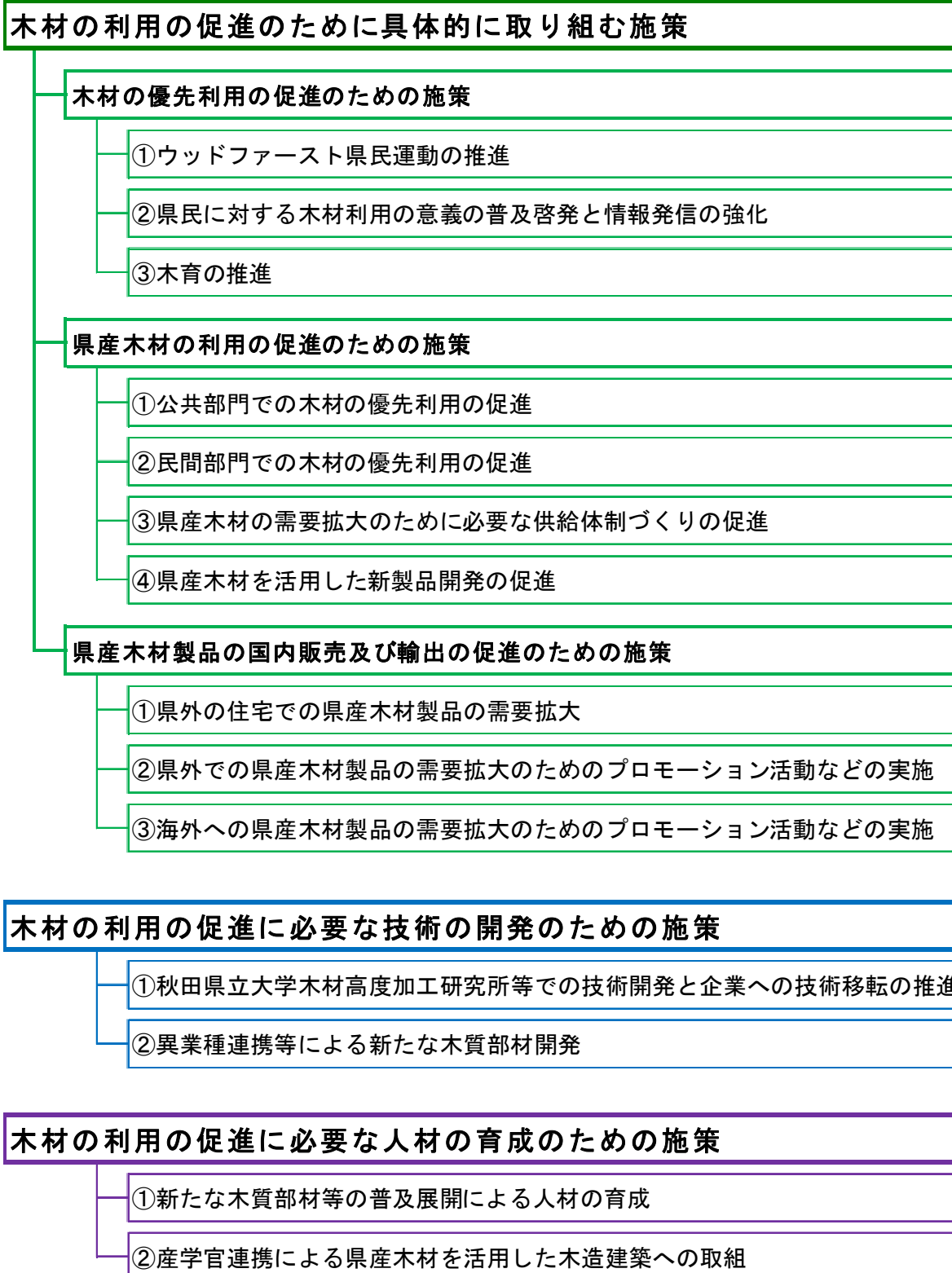
目 次

平成 29 年度木材の利用の促進に関する県の施策の実施状況-----	1
1 木材の利用の促進のために具体的に取り組む施策-----	2
（1）木材の優先利用の促進のための施策-----	2
① ウッドファースト県民運動の推進-----	2
② 県民に対する木材利用の意義の普及啓発と情報発信の強化-----	2
・秋田県県産木材利用推進功労者表彰-----	2
・秋田県産材利用促進ＣＯ２固定量認証制度-----	3
・木造施設事例の紹介-----	3
③ 木育の推進-----	4
（2）県産木材の利用の促進のための施策-----	5
① 公共部門での木材の優先利用の促進-----	5
・公共施設での木材の優先利用-----	5
・土木分野での木材の優先利用-----	6
・公用調達での木材の優先利用-----	6
② 民間部門での木材の優先利用の促進-----	7
・住宅分野での木材の優先利用-----	7
・民間非住宅分野での木材の優先利用-----	7
・木質資源の多角的利用の促進-----	8
③ 県産木材の需要拡大のために必要な供給体制づくりの促進-----	8
④ 県産木材を活用した新製品開発の促進-----	9
（3）県産木材製品の国内販売及び輸出の促進のための施策-----	10
① 県外の住宅での県産木材製品の需要拡大-----	10
② 県外での県産木材製品の需要拡大のためのプロモーション活動などの実施---	10
③ 海外への県産木材製品の需要拡大のためのプロモーション活動などの実施---	11
2 木材の利用の促進に必要な技術の開発のための施策-----	12
① 秋田県立大学木材高度加工研究所等での技術開発と企業への技術移転の推進	---
	12
② 異業種連携等による新たな木質部材の開発-----	12
3 木材の利用の促進に必要な人材の育成のための施策-----	13
① 新たな木質部材等の普及展開による人材の育成-----	13
② 産学官連携による県産木材を活用した木造建築への取組-----	13
（参考）スギ製品出荷量-----	14

平成 29 年度木材の利用の促進に関する県の施策の実施状況

- 県では、平成 28 年 4 月に施行した秋田県木材利用促進条例に基づき、木材利用の促進に関する施策を総合的に推進し、県内の林業及び木材産業の振興による本県経済の活性化を図ることとしており、以下の体系により具体的な施策に取り組みました。

■木材利用の促進のための施策の体系



1 木材の利用の促進のために具体的に取り組む施策

(1) 木材の優先利用の促進のための施策

- 木材の優先利用を促進するため、ウッドファースト県民運動の推進や、木材利用の意義の普及啓発と情報発信のほか、木育を促進します。

① ウッドファースト県民運動の推進

木材の優先利用に取り組む意識を喚起するため、木工体験や住宅用木製品、ペレットストーブ等を展示した「ウッドファーストあきた推進イベント」を開催し、子どもから大人まで、日常生活での木材の積極的な利用を働きかけた。

また、全県の小学4年生を対象に、秋田県水と緑の森づくり税事業により、森林のはたらきと木材の利用に関する副読本「あきたの森林」を配布し、森林学習の教材に活用されている。

〔関連事業〕 ウッドファーストあきた林業雇用拡大事業ほか

表－1 ウッドファーストあきた推進イベントの内容

市町村	開催場所	来場者数	開催月日
秋田市	イオンモール秋田	1,955人	平成29年 8月27日
羽後町	道の駅うご～端縫いの郷～	1,738人	平成29年10月22日



【木工体験】



【住宅用木製品の展示】



【ペレットストーブ】

② 県民に対する木材利用の意義の普及啓発と情報発信の強化

○ 秋田県県産木材利用推進功労者表彰

湯沢市の有限会社中野木工は、伝統の挽物技術を生かし、天然木を用いたボールペンの商品化に取り組む物作りの姿勢が評価され、「日本ギフト大賞2016（第2回）」において木材関係で唯一となる都道府県賞を受賞した。

この活動が他の模範となる取組に該当するとしあきた水と緑の森林祭にて表彰した。



【授賞式】

○ 秋田県産材利用促進 CO₂ 固定量認証制度

木材利用が地球温暖化防止や森林の多面的機能の持続的な発揮につながることに
への認識を高めるため、建築物に使用した木材の二酸化炭素量の認証を行った。

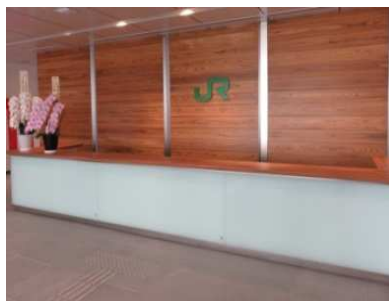
表－２ 認証した建築物

建築物	実施者	県産材使用量	二酸化炭素固定量
J R 秋田駅等の木質化	J R 秋田支社	28.4 m ³	16.3 t-CO ₂
J R 秋田支社ビルの木質化		3.8 m ³	2.2 t-CO ₂
立体迷路 CUBE	株式会社 smart plus	39.0 m ³	22.5 t-CO ₂
計		71.2 m ³	41.0 t-CO ₂

※二酸化炭素固定量 41.0t-CO₂ は、家庭 1 世帯が排出する二酸化炭素量の約 8 年分に相当。



【J R 秋田駅】



【J R 秋田支社ビル】



【立体迷路 CUBE】

○ 木造施設事例の紹介

建築士や施設の発注者等を対象として、公共や民間での建築物の木造化・木質化を促進するため、「木造施設事例集」に設計上の工夫した点や、建築単価を明らかにした新規事例を追加し、秋田県公式サイト「美の国あきたネット」で発信した。

また、地域振興局単位に組織される地域県産材利用推進協議会では、県及び市町村の営繕担当者に事例集を活用しながら、今後、建築が予定されている施設の木造化・木質化に向け周知を図った。



【木造施設事例集】

(表紙)



【にかほ市観光拠点センター】

(外観)



(観光案内待合コーナー)

③ 木育の推進

木のおもちゃの貸し出しなどを通じて、子どもが木に触れあう機会を提供したほか、保護者に木材の機能や利用することによる環境貢献などについての理解を促した。

また、幼稚園や小・中学校及び市町等が実施する木育活動に対し、秋田県水と緑の森づくり税事業による支援を行った。

〔関連事業〕 秋田県水と緑の森づくり税

表－3

秋田県水と緑の森づくり税を活用した
木育活動支援件数

施設区分	H28	H29
幼稚園	3件	4件
小学校	9件	15件
中学校	1件	1件
市町	3件	4件
民間	2件	7件
計	18件	31件



【木のプール】



【親子で木工教室】

トピックス1

鳥海山木のおもちゃ美術館 2018年7月1日グランドオープン in 由利本荘市

由利本荘市は、市内面積の約4分の3が森林であることから、林業の活性化と子どもの遊び場の提供を目指し、2014年から木育への取組を進め、2017年2月には県内で初めてとなる「ウッドスタート宣言」を行った。

この宣言に基づき、新生児に市内産の木材を使って地元の職人が手作りした木のおもちゃを贈呈する「誕生祝い品制度」を創設したほか、国登録有形文化財の旧鮎川小学校を活用した『鳥海山木のおもちゃ美術館』をオープンした。



【誕生祝い品】

「よちよちとりっこ キジ (左)」

「おむすびころりん (右)」



【旧鮎川小学校】



【館内】

（２）県産木材の利用の促進のための施策

- 県は率先して公共建築物等の木造化・木質化を推進するとともに、住宅や民間の非住宅分野での木材利用を促進します。
- C L T等の新たな木質部材やバイオマス等の利用を促進するとともに、品質性能の確かな県産木材製品を供給できる体制づくりに支援します。
- 県産木材の需要拡大のため、必要な施設整備や新たな製品開発を支援します。

① 公共部門での木材の優先利用の促進

○ 県が実施する公共施設での木材の優先利用

平成 29 年度に建築した県営 15 施設のうち、全体の 73%を占める 11 施設の木造化・内装木質化を図った。

表－４ 県営施設の木造化・木質化の建築数

木 造 化	6 件
木 質 化	5 件
そ の 他	4 件
計	15 件



【林業研究研修センターの実習棟】

○ 市町村が実施する公共施設での木材の優先利用の促進

地域振興局単位で開催される地域県産材利用推進協議会において、市町村関係者へ公的な施設での木材の利用事例を紹介するとともに、木造施設の視察や意見交換などを行い、木材利用について一層の理解を促した。

また、市町村等が整備する公共施設の木造化に対して助成した。

〔関連事業〕 木造公共施設整備事業（国庫補助）



【上小阿仁村：集住型宿泊交流拠点施設】



【仙北市：田沢湖クニマス未来館】

○ 土木分野での木材の優先利用

公共事業を中心に、木製残存型枠工や海岸林造成などの工事に 1,066m³ の県産木材を使用した。

〔関連事業〕 防災林造成事業ほか



【木製残存型枠工】



【海岸林造成（防風柵）】



【海岸林造成（静砂垣）】

○ 公用調達での木材の優先利用

秋田港クルーズ船ターミナルの休憩スペース・待合所に、県産木材を使用して、県内の企業が製作したベンチ（25 脚）、イス（6 脚）、テーブル（3 台）を調達するなど、公用備品等での木材利用を促進した。

〔関連事業〕「秋田港クルーズ」まちづくり拠点形成事業ほか



【スギのベンチ】



【クリのテーブルとイス】



【木製の賞状や
机上プレートほか】

トピックス2

都道府県別公共建築物の木造率 3 年連続トップ

林野庁が発表した「公共建築物の木造率」（延べ床面積ベース）では、平成 28 年度の当県木造率が 36.8% と全国一となり、平成 26 年度から 3 カ年連続で一位を維持している。

順位	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
1 位	秋田県 28.6%	秋田県 38.6%	秋田県 36.8%
2 位	青森県 28.2%	岩手県 30.8%	青森県 32.0%
3 位	宮崎県 25.8%	宮崎県 29.7%	岩手県 27.1%
4 位	島根県 25.1%	山梨県 27.9%	岐阜県 25.5%
5 位	山形県 21.4%	山形県 27.6%	宮崎県

※ 民間の教育施設や医療・福祉施設等の建築物を含む。

② 民間部門での木材の優先利用の促進

○ 住宅分野での木材の優先利用

新築住宅に県産木材を使用した施主へ、県産品等と交換できるポイントを交付する制度により、工務店等では、住宅の構造材を外材から県産木材に転換するなど、住宅への県産木材の利用を促進した。

〔関連事業〕 ウッドファーストあきた木材利用ポイント事業



【秋田スギをふんだんに使用した新築住宅】

○ 民間非住宅分野での木材の優先利用

非住宅分野での県産木材の利用を促進するため、新たな木質部材や木構造等を活用した展示効果やシンボル性の高い民間施設の整備を支援した。

〔関連事業〕 新たな木質部材等需要創出先導事業（県単補助）



【大館市：大館圏域ふくし会】

〈部材：異樹種複合集成材 [スギ+カラマツ]〉



【秋田市：秋田県厚生協会】

〈工法：複合組立梁 [木+鉄]〉



【秋田市：タマホーム(株)・キッズスペース】

〈部材：壁面にCLTを使用〉



【秋田市：感恩講児童保育院】

〈工法：複合小屋梁 [木+鉄]〉

○ 木質資源の多角的利用の促進

上小阿仁村の集住型宿泊交流拠点施設に冷暖房用の木質バイオマスボイラーが設置された。

また、熱源となる木質チップには、地域の森林から供給される低質材を使用し、資源の有効利用を図っている。

〔関連事業〕 林業・木材産業構造改革事業



【木質チップ】



【木質バイオマスボイラー】

家庭や事業所での木質資源の多角的利用を促進するため、ペレットストーブと薪ストーブの導入を支援した。

〔関連事業〕 ウッドファーストあきた木材利用ポイント事業

表－５ ペレットストーブ等の設置数

ペレットストーブ	28 台
薪ストーブ	63 台
計	91 台



【ペレットストーブ】

③ 県産木材の需要拡大のために必要な供給体制づくりの促進

競争力のある木材加工産地の形成と木材製品の安定的な供給体制づくりを進めるため、住宅用構造部材等を製作するプレカット加工施設等の導入を支援した。

〔関連事業〕 林業・木材産業構造改革事業



【全自動柱材加工機】



【プレカットされた仕口】

④ 県産木材を活用した新製品開発の促進

日本を代表するデザインプロデューサー喜多俊之氏と県内の家具メーカー等 10 社が連携し、秋田スギの色合いなどの特徴を生かした「AKITA COLLECTION（秋田コレクション）」シリーズの新たな製品を開発した。

〔関連事業〕秋田スギ家具ミラノ進出事業



【MORI TAKE】スツール



【YOKOTE】ボックス



トピックス3

世界初！天然秋田杉によるアコースティックギターが誕生

木都能代の楽器小売販売業者は、樹齢約 200 年の天然秋田杉を表面に使用したアコースティックギターを製作した。

地元の製材業者が 15 年以上自然乾燥した板を使用し、深みのある音色と、天然秋田杉の美しい柀目の表情豊かな楽器として評価されている。



トピックス4

ウッドデザイン賞 2017 県内入賞作品

《 最優秀賞 》

- ・『ノーザンステーションゲート秋田プロジェクト』

東日本旅客鉄道(株)、秋田公立美術大学、(有)萩原製作所、

(株)ジェイアール東日本建築設計事務所、第一建設工業(株)、鉄建建設(株)

〈 入 賞 〉

- ・「男鹿総合観光案内所 内装木質化」.... (株)kiki ほか
- ・「あきた文化産業施設 松下」..... 高橋リエ子建築設計事務所ほか
- ・「天然木のボールペン」..... (有) 中野木工
- ・「つみきばこ」..... 障害者支援施設 小又の里ほか
- ・「木ダボ工法による静砂垣工」..... (株)ウッディさんない

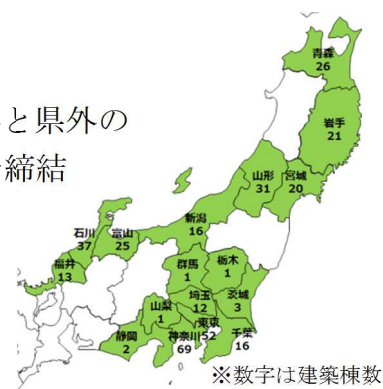
(3) 県産木材製品の国内販売及び輸出の促進のための施策

○ 県外での需要拡大を図るためのプロモーション活動や、海外への輸出にチャレンジする取組を促進します。

① 県外の住宅での県産木材製品の需要拡大

県外での県産木材の継続的な需要の確保を図るため、県と県外の住宅メーカー（8社）が「県産材の利用に関する協定」を締結することで、首都圏をはじめとした県外17都県において、構造材や内装材に県産木材製品を使用した新築住宅の建築が促進された。

〔関連事業〕 ウッドファーストあきた木材利用ポイント事業



② 県外での県産木材製品の需要拡大のためのプロモーション活動などの実施

東京都において、2020 東京オリンピック・パラリンピック需要を見据えた、東京都主催の展示会“WOODコレクション2018”に県産木材製品を出展し、大手建設会社や設計事務所、木材商社や実需者(民間企業)等への販売促進活動や商談等を実施した。



【オープニング】



【秋田県ブース】

また、首都圏の大手木材市場の記念市で、県産木材製品の展示販売会を開催するとともに、製品の求評や新たなニーズの把握のため、市場の買い方と出展企業 20 社との意見交換会を実施した。

「関連事業」 秋田の木プロモーション事業

表-6 首都圏木材市場での展示即売会の内容

開催月日	開催地	出展材積量	県内参加企業数
10 月 17 日	株式会社吉貞（埼玉県）	307 m ³	19 社
12 月 13 日	丸宇木材市売株式会社（千葉県）	200 m ³	14 社



【(株)吉貞 戸田市場】



【高齡級秋田スギ】



【首都圏の秋田材使用事例】

③ 海外への県産木材製品の需要拡大のためのプロモーション活動などの実施

韓国内でのスギの認知度向上を図るため、韓国のソウルで開催された、韓国最大の展示会「KOREA BUILD 2018」に、県産製材品等を出展するとともに、釜山市内にアンテナショップを設置し、木材製品の需要動向の把握に努めた。

〔関連事業〕 秋田の木プロモーション事業



【KOREA BUILD 2018 秋田県ブース】



【釜山のアンテナショップ】

昨年に引き続き、イタリアのミラノで開催された国際展示会に、秋田スギの家具「AKITA COLLECTION (秋田コレクション)」を展示PRしたところ、代理店との具体的な商談がなされたほか、現地メディアの大きな関心と呼んだ。

〔関連事業〕 秋田スギ家具ミラノ進出事業



【国際展示会 AKITA COLLECTION ブース】

トピックス5

新国立競技場への県産材供給

県内の木材業界団体と県で組織する協議会では、オリンピック関連施設を施工する建設企業や建材商社等をターゲットに秋田スギ等のPR活動を展開したところ、新国立競技場の屋根や外装への採用が決まった。

使用される秋田スギの集成材や製材品は、適正に管理された森林であることを認証された県有林等から供給され、県内の木材加工企業を通じて納品された。



2 木材の利用の促進に必要な技術の開発のための施策

- 多様な木質部材に対するニーズに応えるため、秋田県立大学木材高度加工研究所等での木材の加工・利用に関する技術開発を促進します。

① 秋田県立大学木材高度加工研究所等での技術開発と企業への技術移転の推進

木材高度加工研究所の技術支援により、大仙市の農道にC L T床版を採用した橋梁を施工するとともに、秋田市の森林学習交流館プラザクリプトンの学習の森内に、C L Tの歩道橋を設置した。

いずれも木材自体が水に触れないラッピング（包装化）方法等による耐久性と耐朽性を高めたC L Tを使用し、経年変化や防水加工の検証を進めている。

〔関連事業〕 県単河川改良工事ほか



【農道：延長 10m、幅員 4m】



【クリプトン：延長 4m、幅員 2m】



【FRP シートによる被覆処理】

② 異業種連携等による新たな木質部材の開発

2020 東京オリンピック・パラリンピック需要を契機とし、木と鉄を組み合わせるなどの新しい木質部材の開発に向けた取組を進め、スギ集成材を耐火被覆材として、柱と梁のモデル部材を製作した。

〔関連事業〕 東京オリンピック・パラリンピック需要を契機とした秋田スギフロンティア事業



【柱となる角型鋼管にスギ集成材で被覆】



【梁となるH鋼をスギ集成材で被覆】



また、秋田県立大学木材高度加工研究所では、木質耐火部材の開発を進めるため、東北で唯一の実大試験が可能な耐火試験炉（燃焼試験施設）を導入した。

〔関連事業〕 新たな木質部材緊急開発施設等整備事業



【壁材の試験炉】

3 木材の利用の促進に必要な人材の育成のための施策

- 県内の建築士等を対象に、県産木材製品や新たな木質部材を活用した建築物を提案できる人材を育成します。

① 新たな木質部材等の普及展開による人材の育成

木材利用への理解を深めるため、県内の建築士等を対象としたセミナーを開催し、木造の構造設計やC L Tパネル工法を学ぶとともに、実際に建築が予定されている学校施設の設計コンペなどを通じて、県産木材製品や新たな木質部材等を建築部材として提案・活用できる人材を育成した。

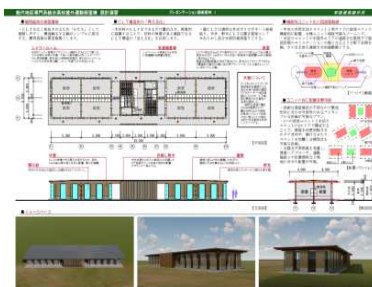
〔関連事業〕 東京オリンピック・パラリンピック需要を契機とした秋田スギフロンティア事業



【プレゼンテーション】



【審査会風景】



【最優秀の提案書】

② 産学官連携による県産木材を活用した木造建築への取組

秋田市雄和椿川（秋田県立中央公園内）に、平成31年度開設予定の秋田県動物愛護センター（仮称）の構造材の一部にC L Tを使用するため、県内のJ A S認定工場がC L Tの耐力壁を製造した。

〔関連事業〕 動物にやさしい秋田推進事業



【C L T耐力壁の強度試験】



【C L T耐力壁の建て込み】



【完成パース】

トピックス6

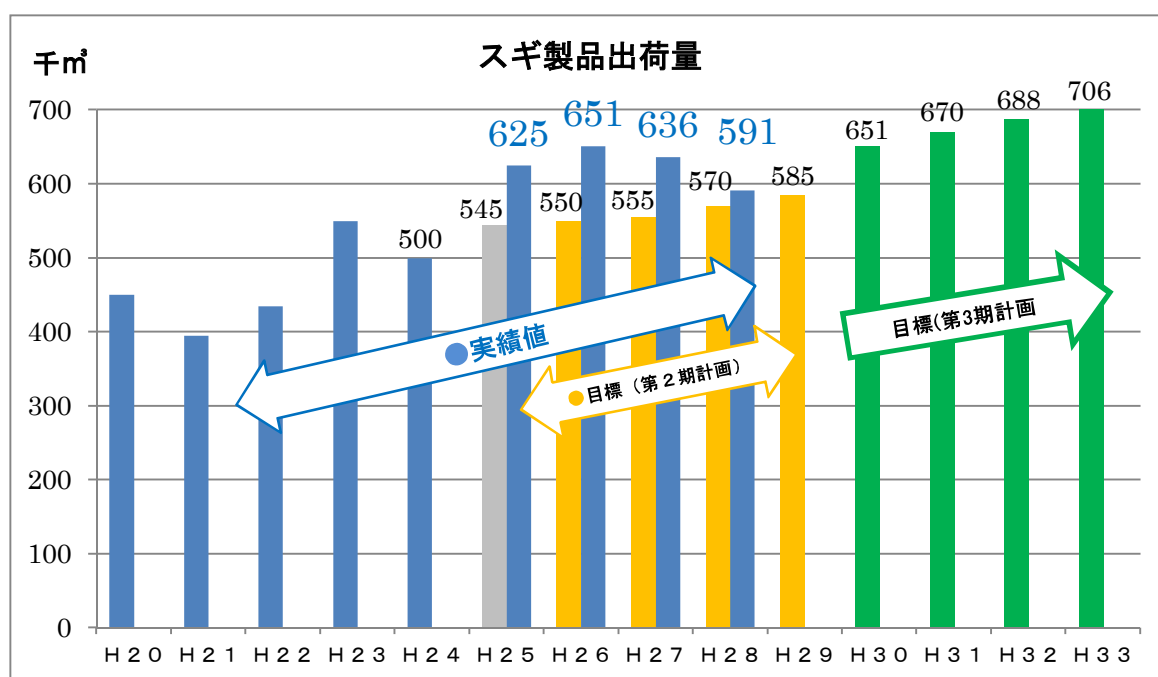
秋田県の建築物の木材利用を進める技術アドバイザー

県では、新たな木質部材等を中大規模の非住宅建築物に活用する取組をサポートするため、木造の耐火等で全国に実績のある技術アドバイザーを配置し、民間の福祉施設へのC L T利用や、公共施設の防耐火に関するアドバイスを行った。

(参考)

○「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」では、県産木材の需要拡大の状況を明らかにするために「スギ製品出荷量」を関連指標としています。

【プランの数値目標：スギ製品出荷量】



「ふるさと秋田元気創造プラン」策定時における「スギ製品出荷量」の数値目標
第2期

○平成24年（基準値） 500千m³



○平成29年（目標値） 585千m³



第3期

○平成33年（目標値） 706千m³

<実績>

○平成28年（実績） 591千m³（目標値570千m³、達成率104%）